

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察防除情報 第1号を下記のとおり発表します。

3月以降の高温傾向により、小麦の生育が進み出穂期、開花期が早まり、赤かび病の感染、発生が懸念されます。現地での防除指導にご配慮願います。

令和5年度 病害虫発生予察防除情報 第1号

小麦 赤かび病の防除対策について

- | | |
|--------|-----------------|
| 1 対象作物 | 小麦 |
| 2 病害虫名 | 赤かび病 |
| 3 発生地域 | 県南部地域 (丹波地域を含む) |

4 麦類生育状況、気象予報について

(1) 麦類気象感応調査(加西市、11月8日播種)によると、3月22日時点で「シロガネコムギ」の生育は主稈葉数で0.3葉生育が進んでいる。「小麦赤かび病を適期に防除するための開花期予測システム」(農研機構)によると、福崎のアメダスポイントにおいて、令和4年11月8日播種のシロガネコムギの出穂期は4月4日(平年値4月17日)、開花期は4月19日(同5月1日)と予測されており、平年と比べて開花期がかなり早まると考えられる。



写真 小麦赤かび病. 左:穎の合わせ目に紅色の胞子, 右:穂全体が褐変

(2) **3月下旬の降水量は54.5mm(平年値:39.9mm、福崎アメダス)で平年の1.4倍とやや多い。**大阪管区气象台(3月30日付)発表の近畿地方の1か月予報によると、降水量は平年並かやや少ない確率がそれぞれ40%であるが、天候は数日の周期で変化している。このことから、一定の降雨が見込まれ、かつ気温は平年より高い確率が50%であることから、発病が助長される可能性がある。

5 発生生態について

本病は、開花期～乳熟期頃から発生し、穂の一部または全部を褐変枯死させる。激しい発生となった被害粒は白っぽい屑ムギとなり、収量や品質が低下し、かび毒による汚染をひき起こす恐れがある。

本病の発生（第一次感染）は、開花始期から10日間の降雨日数が多いと発病穂率が高くなり、またこの期間の日最低気温が高いと発病度が高くなると確認されている。本病が、最も感染しやすい時期は、開花期（約50%が開花）から開花盛期（約80%が開花）である（農研機構「麦類のかび毒汚染低減のための生産工程管理マニュアル改訂版」より）。

6 防除対策について

- (1) 薬剤によるコムギの防除適期は、開花始め～開花盛期であるが、適期防除をした場合でも、発病が認められた場合は、追加防除を検討する必要がある。
- (2) 薬剤の治療効果はほとんど見込めないので発病前の予防散布が必要である。また、薬剤の残効期間もそれほど長くはないため、開花期に曇雨天が続く場合には複数回の薬剤散布が必要である。
- (3) 稲・麦・大豆作等指導指針(令和4年3月改訂) 97ページのとおり、本病の発生がみられる圃場の麦については、健全な圃場の麦と仕分けして収穫する必要があることに留意する（稲・麦・大豆作等指導指針は兵庫県ホームページの掲載ページ
(https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html)を参照すること)。
- (4) 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守すること。
兵庫農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)
- (5) 開花期予測については「農研機構「小麦赤かび病を適期に防除するための開花期予測システム」」を参照すること。

https://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/meteo_fukuyama/WEB/wheat/index_mugi.html

* この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載

(<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

病害虫防除所の公式Twitterを開設しました！

発生予察情報など病害虫に関する情報を提供しますので、是非フォローお願いします。

Twitterアカウント(http://twitter.com/hyogo_boujoshou)

